

高山市街地の拡大

高山市は昭和11（1936）年、高山町と大名田町が合併して市制が施行され、同18（1943）年上枝村、同30（1955）年大八賀村を合併した。平成17（2005）年に9町村を合併したことで人口約96,000人、面積2,179km²の日本一面積の大きい都市となったが、ここで取り扱う地域は、旧高山市についてである。

第1図は、大正2（1913）年発行の地形図で、市街地は宮川を挟む地域に広がっている。この高山市街地の基盤が形成されたのは、金森氏が、松倉・鍋山の城下町を移転して、江名子川と宮川に囲まれた平坦地に新城下町を建設してからである。

城下町は、宮川右岸から東へ町人地、武家地、寺社地に分けられていた。この地区を中心に行政が行われていたため、昭和にはいっても、市役所・裁判所・警察署・郵便局などがこの地域に分布している。近年観光客が訪れている町屋敷は、東から一之町・二之町・三之町と呼ばれる整然とつくられた南北の町筋で、当時の町並みが現在まで保存されている場所である。（この三町筋は、昭和54（1979）年に国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。）

昭和9（1934）年、国鉄高山線が開通し、高山駅が建設されたことで、市域が西へ拡大した。

高山駅の南付近の地域を昭和町（昭和17年に命名）と呼ばれるようになったり、小学校と中学校が駅の

西に建設されたりしている。

第2図は、平成7（1995）年発行の地形図で、中山丘陵東を通る国道41号線のバイパス道路が開通している。このバイパスは、昭和47（1972）年に開通したが、この道路によって、高山市街地がさらに西進した。バイパス沿いに官公庁・飛騨総合庁舎が建設され、また桐生町に卸売り団地、緑ヶ丘・上岡本・中山町に住宅団地、匠ヶ丘町に工業団地がつけられた。近年、駐車場を備えた商業施設も進出している。

また、高山市役所は平成11（1999）年に高山駅近くに新庁舎が完成し、移転している。高山駅近くにあった2つの高等学校がバイパスの西の中山丘陵地域に移転し、新しく短期大学も設立された。さらに、市営陸上競技場・野球場・テニスコート・ビッグアリーナ（体育館・武道場等総合施設）などスポーツ施設が、この丘陵地域に建設されている。

このように旧高山市街地は、昭和から平成にかけて、宮川を挟む地域から漸次西へ西へと広がりを見せてきた。今後、平成の合併による市域の拡大、高速道路延伸などの要因によって市街地がどのようにデザインされていくのか興味深い。

【参考文献】「地図で読む岐阜」古今書院 1999

「角川日本地名辞典21 岐阜県」角川書店 1991

第
1
図

第
2
図

大正2(1913)年発行 1:50,000地形図「三日町」「高山」
原因より44%に縮小

平成7(1995)年発行 1:50,000地形図「三日町」「高山」
（一部地名追記）原因より44%に縮小

「世界分布図センター」には14万点を超える地図・分布図、地図関係図書があります。

また、コンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナルな地図・分布図を作製、印刷することが出来ます。

学習や調査研究、国内外の旅行の準備などお気軽にご利用ください。

岐阜県図書館 世界分布図センター

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

TEL (058) 275-5111 (内線286)

FAX (058) 275-5115

URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>

E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp